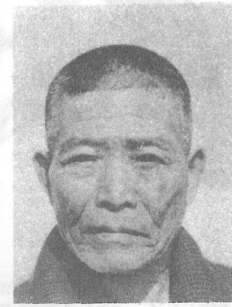


老後のたのしみがふえた



篠本一、六八〇

伊橋新市

よく十年一昔といいますが、ちよと一昔前拠出制年金制度が発足しました。当初は、十年先といっても皆目見当もつかず、ただ莫然と加入したにすぎませんでした。それと同時に、いったい自分は

その頃まで、丈夫で働くことができるだろうかと不安でした。月日のたつのは早いもので、ここに幸いにも、第一回目の年金をいただくことになりました。当初心のすみに残った健康のことも、今は何の心配もなく若い者に、まだ負けるものかと頑張っています。仕事の合間に好きなつりをし、盆栽を愛し、菊作りをたの

しみ老後の幸福な生活を送っているこのころです。

かつて働き盛りであった戦前戦後のつらい時代を、非常な苦しみを負ってすごして来た我々同年配の方々のうえに、今こうして平和な国家から福祉の手がさしのべられることを思うと、感慨無量です。私も年に一度か二度、妻と一緒に旅をします。

この年金をいただき、一段とたのしい旅が出来ると信じております。

母子年金に感謝



宮川六、〇四二

斉藤節

末の子もようやくこの春、小学校入学を迎えるまでになりました。かえり見れば幸せだった私の家庭に、実父の急死、その悲しみも消え去らない一ヶ月後には、夫の交通事故による死、暗い日がおとづれました。

上の子が二才、下の子が二ヶ月の幼い二人の子供をかかえ、気も動転するばかりでした。長男誕生を喜び、病院では「たいたことはない。」と言いつれていくたびにベットの上下でだきあげて、一日も早くなおることを待っていました。毎日毎日、自分では何をしているかわからず、生きる望みも失いかけていました。姉弟、親類、近所の方達に力づ

けられ、残された二人の子供のためにも強く生きなければと言いきかせました。少しばかり手がけたことがある洋裁を生活の糧として、夜中までミシンを踏んだ事もありました。

心の落ちつきができた頃、役場から年金を頂けるとのお話を聞き、日の目をみたよううれしきでした。国民年金は、年をとってから頂くものと思っていました。このような時でも頂けると、始めて知り感謝にたえません。交通事故の多い現在、年金のありがたを思うとともに、加入してよかったですしみじみ思っています。

赤ちゃんコンクール

十二人にごほうび

昭和四十五年度の赤ちゃんコンクールが、橋場青年館で行なわれ

ました。四十年四月一日から、四十五年



さあいい子だから泣かないでね

三月三十一日までに生まれた赤ちゃんは、全部で百四十三名です。

三月十九日行なったコンクールには、六十三名の赤ちゃんが出場しました。次の十二名のりっぱな赤ちゃんが、優良乳幼児に決定しました。表彰式は、二十四日に行なわれました。

乳幼児名	部落名	保護者名	乳幼児名	部落名	保護者名
鈴木由美子	五ノ神	忠	関口智子	篠本三区	貞雄
会野直美	篠本三区	新一	土屋健夫	宝米	絃
向後文雄	白磯	栄	越川敏宏	母子	雅生
片岡智子	関	美夫	山本和也	白磯	和男
鈴木勝也	小川合	敏司	土屋ますみ	芝崎	平一
須合克夫	小川合	清勝	川島晴美	二又	信一